



「いとこ同士」 矢吹尚也 (有)矢吹写真館 (北海道)

■選評

この写真を見た誰もが「いとこ同士の仲がとってもいいんだな!」と感じる、3人の明るく楽しそうな表情をストレートに表した子供写真です。写真館のカメラマンの技術力が詰め込まれている1枚でもあり、着物の曲線と直線は美しく、寄り添うようなポーズになるよう誘導し、背景の処理も丁寧に施されています。一見、トップのハイエストライトが強過ぎると感じるかもしれませんが、このハイライトがあることによって、柔らかな光で暗めの背景と人物の分離が明確にできており、前に出てきているように見える人物に「キュッ」と目がいくように構成されています。強い光の効果を熟知し、それを操るカメラマンの高度な技術力が伝わってくる秀作です。

■喜びの声

このたびは銅賞をいただきありがとうございました。

この写真は当スタジオで小さい頃から写させていただいている男の子と、離れた町に住んでいてたまにしか会えない(コロナ禍でさらに)いとこのお兄ちゃんたちとの久しぶりの再会記念のとても楽しい撮影から生まれた一枚。

この写真が受賞したことをとても嬉しく思います。

普段着なれない和服ということ、しかも久しぶりの再会ということもあり3人ともぎこちない様子だったものの、声掛けに反応するうちだんだんと3人の動きがシンクロし、一人ひとりそれぞれがさまざまな表情を見せてくれるようになりました。さすがいとこ同士!スイッチが入ると息もぴったりで、こちらも楽しんで撮影することができました。

お母さまから彼らがなかなか会えなかったというお話を聞き、いわゆるポートレートは、写す人と写される人が実際に対面し言葉を交わしながら作り上げる共同作業なのだということを今更ながら強く認識させられました。

現在では一人ひとり別々に撮影したものをAI等で合成して1枚の写真を作ることは容易ですが、みんなが集まって一緒に撮影したという事実は、ずっと先の未来まで思い出として彼らの中に残るものと感じています。今後も思い出の一部となるような撮影ができるようにと願っています。

このたびの受賞に際しまして、日頃お世話になっている諸先輩・北海道営業写真家協会・写真の良さを伝える会・日本肖像写真家協会の皆様・㈱ロイヤルカラー様に厚く御礼申し上げます。そして、日々支えてくれている家族とお客様に感謝を!

(制作ラボ: ㈱ロイヤルカラー)





「1st シングル」

川又康德 (株)小貫写真館 パセオヌエボ水戸店 (茨城)

■選評

賑やかな声が聞こえてきそうな親子バンドの家族写真です。子供たちのはしゃぐ姿を嬉しそうに見つめるお父さんとお母さんが微笑ましく、「撮影が楽しかったんだろうな」という空気感も表現されているような1枚。全員が黒い衣装ですが、赤チェックのスカートとギターの色味がアクセントになっているため暗く見えず、家族の明るさや楽しさがあふれ出ています。さらに、手前にアンプを置いている演出が上手く、ここに片足を上げることでロックらしさと動きを画面に与えています。このような写真では、後ろから硬い光をステージっぽく当てることも多いですが、ここにはそれがなくて、あえて家族の個性を前面に打ち出した絵作りができ、作品の魅力を高めています。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フィルム営業写真コンテストで銅賞に選出いただき、ありがとうございます。

昨年に引き続きまさかの上位入賞に大変驚いています。と同時に嬉しさや誇らしさも噛み締め中です。入賞できているのも小貫写真館を選んでくださっているお客様、代表をはじめ撮影する環境を整えてくださるスタッフの皆様、日々支えてくださる家族がいるからです。改めて皆様に感謝します。写真「1st シングル」はアーティストのジャケ写のように、ライブ中のように、バンドメンバーのように、そんなテーマで撮影させてもらいました。

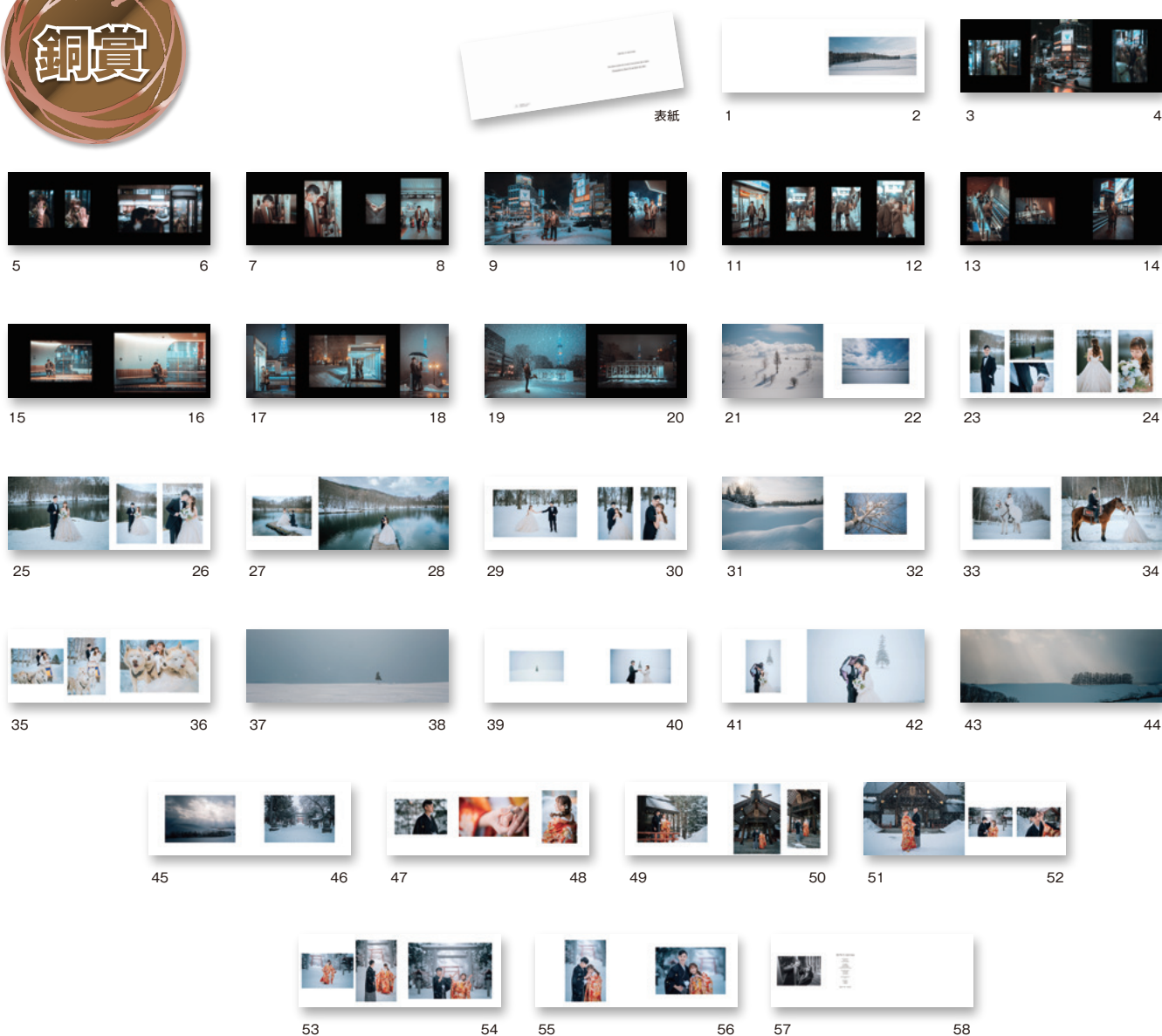
撮影中の印象はとにかく「楽しい時間」でした。日頃から撮影中の時間を大切に、お客様にとって思い出深い時間になるよう心がけていますが、今回はお客様の方から楽しい時間を作ってもらっていると感じました。お客様のコーディネートや撮影中のパワーに感動し、

そのパワーを形にするためにイメージと想像で光を作り、ポーズはお客様と一緒にその場の雰囲気の中で、撮れた写真が「1st シングル」です。今回の賞はお客様のテーマ性に尽きます。毎年家族写真を撮りに来館いただきありがとうございます。

まだまだ未熟ではありますが、今後もお客様にご満足いただける撮影を目指して精進してまいります。

(制作ラボ: (株)プロカラーラボ イーストラボ)





「A World Of White」 木下 令 (株)デコルテ HAREI (東京)

アルバム

選評

まるで1本の映画のストーリーが紡がれているような、感動を呼び起こす婚礼アルバムで、見る者を圧倒させる力のある1冊です。広大な北海道の風景から始まり、札幌の繁華街でのデート、雪降る富良野でのウェディングと続き、見応えのある写真がどんどん目に飛び込んできます。シーン転換のページには美しくも迫力のある自然の景色を差し込みながら、愛に満ちた二人の物語が華やかに展開されていきます。ストロボの仕込み方やカラーフィルターの活かし方も秀逸。写真1枚1枚の完成度も高いのですが、二人のビュアな素顔が写し出されており、それを引き出したカメラマンの綿密な事前準備と優れたコミュニケーション力も見取れる非常に優れたアルバムです。

喜びの声

このたびは栄誉ある賞に選んでいただきまして誠にありがとうございます。
56回開催から今回の61回開催まで、6回連続入賞をすることができました。
この受賞全てが、お客様の「アルバム」で選んでいただけに、とても喜びを感じております。
まずは私の周りでもいつもお力添えいただいている多方面の皆様、社内のメンバー、家族への感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます。
「アルバム」は撮影したあと、年月を重ねることにその価値が生まれるものだと思います。
映像作品ではないので音も動きもありません。それらの代わりに余白が存在します。
私はこの余白がこの先二人がアルバムを見返したときに色づき、音が入る部分であり、それこそが全てを記録する映像作品にはないアルバムの魅力ある部分だと感じています。
私にとってはお二人のことを思い出しながら、この余白を使った記録を作っている時間がただただ心地よく、この作業が楽しい時間でもあります。
今回の二人のアルバムは2日にわたって撮影したので写真の枚数も多かったのですが、その中から厳選する作業もまた楽しい時間で、毎回そうですがアルバムを作る時には特に悩むこともなく、サクサクと写真を並べることができました。

これは撮影時のお二人と過ごした時間、その時起こったことや話したこと、シャッターを切ったタイミングのことを思い出しながらその日を振り返る作業だったからのように思います。
この先私に担当させていただける新郎新婦様に、素敵な1冊をお届けできるよう、感性を磨き続け、そして多くの人にとって「アルバム」という写真の残し方の魅力を伝えていけるよう努力をしていこうと改めて思うところでございます。
ご覧いただきました皆様へ、写真に映るお二人のその日の様子、幸せな感情が少しでも伝わったら幸いです。
このたびは誠にありがとうございました。
(制作ラボ: ㈱ラボネットワーク)





「弟が生まれたよ!!」 飯田聡子 フォトピア(株) (東京)

選評

赤ちゃんが姉、兄に抱かれ、誕生が家族にとって大きな喜びであることが伝わり、3人の楽しい未来をも予感させる素晴らしい1枚です。「新しいニューボーンの形」という意味でも高く評価されました。赤ちゃん一人をアートの撮るのがニューボーンのイメージでしたが、この作品は“家族の愛情”がより心に響く新・ニューボーンといえるでしょう。ナチュラルホワイトで揃えた衣装、ふわふわとした白い羽根の上に3人、その様を柔らかな光で包み込むといった、絵作りとライティング技術にも目を見張るものがあります。また、ハイエストライトが立つような硬い光を入れず、柔らかな光だけで仕上げたことが完成度を高めています。新たな表現の開拓を見せた意欲作です。

喜びの声

このたびは銅賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。今回の作品は、新生児の赤ちゃんとお姉ちゃん、お兄ちゃんの三人を撮影した一枚です。お兄ちゃんもお姉ちゃんも、小さかった頃から撮影させていただいており、まるで親戚の子どもの成長を見守るような気持ちでシャッターを切りました。新しい命を迎えた三人の姿を写真に残せたことは、私にとっても特別な経験となりました。

写真では「家族の中で自然に生まれる優しさと絆」を表現しました。お姉ちゃんに抱っこされる赤ちゃんの表情はとても柔らかく、今にも微笑みそうで、お兄ちゃんとお姉ちゃんの笑顔も本当に輝いていました。特にお姉ちゃんが赤ちゃんを抱っこできたことを誇らしげに見せる姿は、きょうだいのつながりと新しい役割を受け止める喜びを感じさせてくれました。ご家族の明るく愛にあふれた雰囲気のおかげで、三人の笑顔は自然と引き出されました。作り込む必要はなく、あふれ出る柔らかな表情が、そのままこの家族の温もりを物語っていま

した。その自然な瞬間を逃さず写し撮れたことが、この作品につながったと感じています。

入賞の報告をご家族にお伝えした際、とても喜んでいただけたことも嬉しく、写真がご家族にとって大切な思い出として残っていくことを改めて実感しました。今回の受賞を励みに、これからもご家族の時間を未来に届けられるような一枚を撮り続けていきたいと思っています。

(制作ラボ:富士フイルムイメージングシステムズ㈱)





「住職」 中野修平 中野写真館（神奈川）

■選評

柔和な表情と静寂な佇まいの表現に思わず心が引きつけられる、住職を撮影した大人ポートレートです。「このお坊様に人生相談してみたい」と思わせるほど優しい面立ちですが、しっかりと威厳や品格も感じさせる絵作りにカメラマンの力量が投影されています。アンバー系の色調も画面をきれいに見せ、人物の後ろにハイライトを入れていることで奥行きを出して、背景を暗くベタツとしないようにし、外光がわずかに差し込む表現も相まって、静ひつな空気感を見る者に感じさせます。格の高い僧侶のポートレートの多くは真正面から撮り、威厳をいかに表現するかを重視していますが、「人柄を打ち出す画面作りもありだ」と表現の新鮮さも見せてくれた秀作です。

■喜びの声

「修平、いつか一緒に帝国ホテルへ行こうな！」
仲間たちとの約束を果たすために今まで挑戦し続けてきましたが、まだまだ未熟な私にとってこの数年は長く苦しい道のりでした。
しかし諸先輩方からご指導いただき仲間と励まし合ったこの時間は、今思えばとても幸せだったと思います。
2年前、弊社の60周年写真展を開催した際に、私が住む長津田の方を数名撮影させていただき、ご本人様のメッセージを添えて展示しました。受賞作品はその中のお一人で、住職様の作品になります。
現場に設置されていたスポットライトとストロボ光を調和させて、この場所の空気感を壊さないように撮影しました。住職様に前に緊張して物凄い汗をかきながら撮影したことを覚えております。
最後になりますが、いつも私を信じて見守ってくれている家族と、営業写真の素晴らしさを教えてくださった恩師の滝不二樹先生、篤史先生をはじめ、たくさんの方々のご指導の

おかげで今の私があります。この場をお借りして感謝申し上げます。
そしていつも最高のプリントに仕上げてくださるプロカラーラボの皆様。写真はやはり印画紙に焼いてこそ写真なのだと改めて感じています。
これからも自分の信念をしっかりとお客様と向き合い、写真の素晴らしさを伝え続けていきます。
このたびはたくさんの素晴らしい作品の中から銅賞に選んでいただき、本当にありがとうございます。
(制作ラボ：㈱プロカラーラボ イーストラボ)





「可愛いく キュッ♡」 大井景子 フォトグラフィックオオイ (神奈川)

■選評

七五三を迎えた女の子の可愛らしさが画面からあふれ出てくる1枚です。真正面に向かって微笑んでいる表情だけでなく、ちょっとした仕草も魅力をより引き出しています。また、千歳飴などの七五三アイテムを人物の横に置いていますが、うるさくなりがちな画面を秀逸なライティングでまとめ上げています。光の当て加減によって女の子が主役だということもわかり、千歳飴なども適度に浮き出て見え、巧みな空間処理で背景もベタツとしておらず、むしろ白い壁にも表情が感じられるほどの高度なライティング技術が詰まった優秀作です。今のママたちは、子供と一緒に小物などを入れた写真も好みますので、写真館のカメラマンの参考にもなる作品といえるでしょう。

■喜びの声

榮譽ある富士フイルム営業写真コンテストで銅賞をいただき、心より嬉しく思います。常に目標としているコンテストでの上位入賞は、ともすれば独りよがりになってしまいがちな日々の撮影に光と道を標してくださるようになります。ありがとうございます。また、常に惜しめないご指導をくださる全国の先生方、諸先輩方々、美しいプリントを作ってくださるプロカラーラボの皆様感謝申し上げます。日頃の撮影は常に自然体で、をモットーに夫と共にしております。透き通るような透明感のある女の子をできるだけシンプルに奇をてらわずに撮らせていただきました。お子さんのご撮影は楽しく、そして時間との勝負でもあります。素直に心を開いてくださったお客様との共同作品だと思っております。

時を経ても、宝物と思っていただけるような1枚を残せるよう、これからもクリアな気持ちで学んでいきたいです。

いつも思うように自由に任せてくださっている寛容な夫に感謝です♡

ありがとうございました。

(制作ラボ: ㈱プロカラーラボ イーストラボ)





「桜の下で」 下宮伸一 shimomiya photo office (長野)

■選評

アート表現の写真として成立している成人写真です。元はさほど変化のない風景写真だと思われますが、合成技術を駆使し、油彩画のように描き変えて成功した例といえます。海外の写真コンテストでは、このような油絵っぽい作品が評価されることも多いため、この作家も海外の嗜好を意識して絵作りしているのかもしれません。日本人が思い描く“和の美しさ”というより、和装にもかかわらず少々派手な動きをした女性が、油彩っぽく色調を変えた空や桜の中にいる、「外国人はこういう絵に、日本らしさを感じるのかな」と思わせる作品。作り込みが丁寧で洗練されているため嫌味がなく、日本人でもフラットな気持ちでこの世界観に入っていける、魅力的な写真です。

■喜びの声

このたびは、2025 富士フィルム営業写真コンテストにおいて、銅賞という栄えある賞をいただくことができ、大変光栄に思っております。コツコツと積み重ねてきた日々の努力が、こうして評価されたことは、何よりの励みとなりました。「コツコツと頑張っていれば、誰かが見てくれている」という言葉の重みを、今、深く実感しています。

今回の作品では、背景の持つ力や、そこにある物語性を大切にしました。被写体と背景とが響き合うような一枚を目指し、その「想いをつなげる」ことに注力してきました。お客様の人生の一瞬を写真として残す以上、単なる記録ではなく、心に届く記憶であってほしい。その思いが私の表現の原点です。

制作の過程では、ロケーション選びや時間帯、構図など、細部にまでこだわり抜きました。

世間では AI が主流の中、リアルさを表現したく、理想の一枚を求めて、実際に足を運び、

その積み重ねが今回の受賞につながったのだと思っています。

これからも「心・技・体」を大切にしながら、写真を通してお客様の大切な瞬間を形にし、想いをつなげるお手伝いができればと願っております。今回の受賞を一つの通過点とし、さらに表現力と技術を磨いてまいります。

(制作ラボ：㈱アオバカラー)





「入学 ～父の想い～」 桑島絵理 桑島写真スタジオ（大阪）

■選評

入学を前に、父親が息子のネクタイをしめている様子を写し取ったスクールフォトです。息子の後ろからネクタイをしめています。そこに“入学を祝う、父親の大いなる愛情”がひしひしと伝わってきます。また、息子さんの少し恥じらいのある、しかし嬉しそうな表情をしっかりとおさえたところにカメラマンの力量が見て取れます。その二人の姿をドア越しに覗いているような、母親の目線とも思えるような画角もストーリー性を醸し出し、高度な構成力が感じられます。さらに、ふわっと温かみを感じさせるセピアの色調は“思い出のワンシーン”のような印象を見る者に与えています。「自分の子供にもこんな時期があったな」と思い出させるほどの秀逸な作品です。

■喜びの声

このたびは栄えある銅賞をいただいたこと、誠にありがとうございます。

2年連続の「銅賞」に、まさかの驚き!!とともに心から嬉しく思っております。

今回の写真は、受験を終え、小学校卒業、中学校入学という新たな始まりの撮影の中での一枚です。お着替えの際に鏡の前で「はじめてのネクタイ」をお父様がサポートする姿に心が動き、シャッターを切りました。

数ヶ月後には、難なくネクタイを結び、一人で登校することを思うとお父様のこのサポートは大切な思い出の一枚になるはず…とアルバムの一枚となりました。

小さい頃からいつも大切な節目に撮影をお任せいただき、ご家族の皆様に感謝申し上げます。そして、常に切磋琢磨をさせていただける環境を作ってくださいとたくさんの諸先輩方、心からお任せできるプロカラーの皆様、そして側で支えてくれている家族とスタッフ、いつもあ

りがありがとうございます。おかげさまで充実した日々にしあわせを感じています。

より魅力的な人間を目指し、フォトグラファーとして感性を磨き、心が動く瞬間を捉える力を鍛え続け、技術、精神共に精進してまいります。本当にありがとうございます。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）





「HAGANUKETA」 井上彩夏 muguet. design photo studio (鳥取)

アルバム

選評

“乳歯が抜けた”という、誰もが通る成長の1コマをアルバムに仕上げ、「新メニューの誕生」をも感じさせた作品です。大人が素通りしてしまうような「子供時代の一瞬さえ、思い出のアルバムにできる」と教えてくれた、高い感性が好評を博しました。女の子の自筆やぬいぐるみの写真も織り交ぜながら、可愛らしくスタイリッシュなセンスにあふれた1冊。また、乳歯ケースなどもアイテムとして加えられ、時代性もしっかり写し込まれている点にも面白さがあります。このアルバムが店頭においてあったなら、多くのママが「“歯が抜けたアルバム”を作りたい!」と言いそうな、新しい風を感じました。卓越したセンスがほとばしる素晴らしいアルバムの誕生です。

喜びの声

このたび、歴史ある「富士フィルム営業写真コンテスト」において、銅賞という身に余る光栄な賞をいただき、心より感謝申し上げます。長い歴史の中で多くのフォトグラファーに愛され続けてきたこのコンテストで評価をいただいたことは、今なお信じられない思いであります。

受賞作品「HAGANUKETA」は、私の大切な友人でありお客様でもあるご家族の娘さんをモデルに撮影しました。乳歯が抜けた日の「この瞬間を残したい」というお母さまの想いから生まれたアルバムです。誕生日や七五三のような特別な日ではなくても、日常の中に訪れる小さな節目こそが確かな「成長」であり、その瞬間を等身大サイズのアルバムに仕立てることで、ご家族の記憶により深く残していただけるようにと願いました。

また今回は、尊敬してやまない師匠である Studio womb の筒井垂矢さんが、私の息子を撮影してくださった作品でテーマ賞を受賞されました。自分自身の作品と、師匠によるわが

子の作品が同時に評価いただけたことは、まさにW受賞のようで、家族としてもフォトグラファーとしてもこれ以上ない喜びです。

この受賞は、支えてくださったお客様や、導いてくださる師匠、そしてサポートしてくれる家族や仲間のおかげでいただけたものです。この経験を胸に、これからも一枚一枚を大切に撮り続け、より多くの方の心に残る作品を生み出していきたいと思っています。

(制作ラボ:富士フィルムイメージングシステムズ㈱)





「思い出の場所で」 山崎綾乃 (株)デコルテ スタジオ AN (福岡)

選評

水族館の大水槽前で撮影した婚礼写真です。ウェディングのロケーション撮影は増加していますが「こういう場所でも撮影ができるのだな」と、撮影場所の自由度と広がりを感じさせてくれた作品。青の洞窟を彷彿させるような、青一色の世界に二人だけが存在し、まばゆい光がスポットライトのごとく差し込み、二人を美しく浮き上がらせています。また、水槽内の大きなエイが二人を見下ろすような位置にいますが、エイの白い姿が画面に動きをもたらし、静と動が相まった画面構成を生み出しています。エイが二人を祝福しているようにも見え、ちょっとした面白さも感じられます。一つの世界観を描き上げたカメラマンの高度な感性が見て取れる独創的な1枚です。

喜びの声

このたびは、伝統ある富士フイルム営業写真コンテストにおきまして、光栄にも銅賞を賜り、誠にありがとうございます。

このような素晴らしい賞をいただけたこと、大変嬉しく思っております。これもひとえに、日頃より支えてくれている家族、周りのスタッフや先輩方のお力添えがあってのことと存じます。心より感謝しております。

今回受賞させていただきましたこの作品は、お二人でデートでも行ったことがある水族館での撮影でした。ウェディングフォトという大切な写真だからこそ、お二人の結婚式に飾りたくなるような、幻想的で非日常的な雰囲気を表現できたらと思って撮影した1枚です。

この写真には、お二人の距離感や、横顔のシルエットから、お二人の仲の良さやお互いを大切に思う気持ちも伝わるといふ思いも込めております。お二人もとても喜んでくださった写真でした！

これからも撮影させていただき、お二人やご家族様にとって、単なる写真だけではなく、素

敵な思い出として心に刻まれるような時間をご提供いただければと思います。そして“無理をせずいつも通りで、でもちょっと特別で愛おしい”そんな1枚を残せるよう、日々精進してまいります。

このたびの受賞を通して、改めてこの仕事の素晴らしさ、そしてお客様に喜びと幸せを届けることの尊さを、深く実感いたしました。

本当にありがとうございました。

(制作ラボ：㈱ラボネットワーク)

